

2019年 会長・社長 新年あいさつ

新年おめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（TOKYO MX）は1月7日（月）に「新年祝賀式」を開き、後藤会長、伊達社長が社員にそれぞれ次のように挨拶しました。

【挨拶】後藤 亘 代表取締役会長

『時代を先読みしたコンテンツの創造にチャレンジ』

新年あけましておめでとうございます。

今年もいよいよ始まりますが、平成の30年を振り返ってみると、災害もありましたが我々メディアと関係するのは、ICT（情報通信技術）の発展が一番大きな流れであったのではないかと思います。この流れは、平成だけで終わることなく、これから数年の間にさらに大きな飛躍があると思われまふ。

当社も振り返って見れば、今からちょうど10年前に周辺のテレビ局のご理解、ご協力のもとに東京スカイツリーへ移転する事が出来まふ。そして、MX1、MX2のマルチチャンネル編成を実行しまふ。これにより、広告メディアとしては色んな問題に直面したとは思いますが、デジタル放送としてMXは大きな第一歩を踏み出しまふ。MXの存在感を広くアピールするには、何か変わった事や、人がしない事を始めないと注目が集まらなないので、色んな事に挑戦してきまふ。エムキャスト配信も始まりましたが、ICTの可能性を探りつつ、色んな部門でこれからもICT時代における新しいチャレンジを続けていく事が最も大事だと思いまふ。

小さなテレビ局が生き残る要諦は知恵しかありません。大きなテレビ局は放送収入と放送外収入の売上比率が同じになっていて、放送収入がマイナスになつたとしても、放送外収入で基盤を築きつつあり、小さな局とは非常に大きな差があります。開局が遅い我々としては、この差をどう埋めて、この時代にどう対処するかという事になると、知恵を出し、挑戦する勇気が必要になります。そういう時代であるという認識を皆さんと共有しながら頑張っていきたいと思いまふ。チャレンジの中から新しい道が見出されていきます。少々の失敗やマイナスは恐るるに足らずで、それよりもチャレンジする精神の方が大事であり、知恵を出す事で、MXの存在感はもっと大きくなると思いまふし、そうしていかなければなりません。

今年度は、新たなテーマとして、新局舎のプロジェクトがあります。2022年のマスター更新に合わせて、建物の大規模改修、スタジオの新設などを図っていきます。デザイン監修は建築家・隈研吾氏にお願いしてあります。隈さんのデザインした建物がこの場所に完成した時に、一つの文化価値として、カルチャー時代の最先端をいくような、効果的な建物になると確信してあります。その効果は目に見えない大きな力になると思いまふ。

このあと伊達社長から、当社の新しいメッセージについて説明があると思いまふが、TOKYO MXで働く皆さんが、担当の垣根を越えて全社一丸となつて知恵を出し合うことが最も大事です。時代を先読みした様々なアイデアを提案しながら、新たなコンテンツの創造に向けて一緒に挑戦していきまふ。

【挨拶】伊達 寛 代表取締役社長

皆さん、新年明けまして おめでとうございます。平成も残り4カ月となり、日本が新たな時代を迎えようとしています。その重要な節目となるタイミングに TOKYO MX がどのように進んでいったら良いかという事をテーマに、昨年来からプロジェクトを立ち上げ、メンバーと検討して参りました。

大きなポイントは2つです。「MX からどのような言葉を発信するか。また、その言葉に基づき、どのように行動していくか」です。メンバーの真剣な討議を経て、まとめる事が出来たので、本日、私から発表させていただきます。

『つなげるテレビ。TOKYO MX』
東京のアレコレを解決する会社でありたい。
いろんな声に耳を傾け、想いをつなぎ、
ほっとする暮らしや素敵な未来を、一緒になって創りたい。
東京のテレビ局として。
多様性を 伝える ツナゲル。

東京に生まれ、育てられたテレビ局として、東京が抱えている様々な多様性を尊重し、これらを伝え、ツナゲルことにより、東京が抱えている課題解決の一翼を担いたいという気持ちを込めてメッセージとしました。まず、このメッセージを発信する事から始めたい、という思いです。テレビ業界が大きく変わる中で、従来の様に番組を制作し、広告枠を提供するスタイルだけではなく、広告主がリーチ以上に消費者との深いエンゲージメントを求めていると言われている状況の中で、MX が多様なコミュニティと深いコミュニケーションを創り上げる事により、広告主が消費者と「つながる」様々な場と方法を MX が提供していきたいと考えています。

今後、ますます重要となってくるテーマの一つとして、放送と通信を活用して、通信連携放送事業を推進していきたいと考えています。MX がプレーヤーとして、又、パートナーとして、様々な声に耳を傾け、想いをつなぐ事により、MX と視聴者がつながり、そして視聴者同士をつなげ、視聴者とクライアントをつなげ、クライアント同士もつなげ、更にはエムキャストで地方と東京をつなげ、越境 EC で日本と世界をつなげる。そういう夢を持って、MX が東京とともに発展していけたらとの思いを込めています。このメッセージを契機として、皆さんのそれぞれの領域で誰と誰を、誰と何を、つなげていくか、イメージしながら、クリエイティブに磨きをかけてもらい、これからのテレビを考える一つのきっかけにしていきたいと思えます。

「つなげるテレビ。TOKYO MX」今日から、このメッセージで皆さん共に行動していきましょう。

以上